

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	コンビニ（店 長）	来客数の動き	・タスポが導入されて以降、たばこを買いに来店する 客が増えている。
		一般レストラン （店員）	それ以外	・テレビで紹介されてから、開店以来の売上を5日間 連続で記録し、その後も順調に推移している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・梅雨明け以降は真夏のような気候となったことで、 タクシー業界は動きが出てきている。
	やや良く なっている	百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・上好品のファッション商材、高額品の動きは鈍 い。ただし、猛暑で季節商材の売上が伸びているほ か、クリアランスで価格が下がっていることもあり、 少し上向き傾向となっている。
		スーパー（管理 担当）	来客数の動き	・来客数が前年比3%増と大きく伸びている。車での 来客に頼らない店舗が多いため、ガソリンの高騰が良 い方に出ている。
		コンビニ（店 長）	それ以外	・タスポの導入でたばこの購入が増え、売上は前年よ り伸びているものの、粗利金額は前年並みである。
		コンビニ（店 長）	来客数の動き	・連日の猛暑で冷たいドリンク類を目当てに客が来る ようになり、来客数や売上が増えている。
		コンビニ（マ ネージャー）	販売量の動き	・6月からのタスポ効果が持続しており、たばこの売 上は前年比で約2倍の伸びが続いている。また、今月 は猛暑日が多く、めん類やお茶、水などの販売数も激 増している。特に夕方の時間帯が大きく伸びている。
		家電量販店（経 営者）	お客様の様子	・猛暑により夏物商戦に活気がみられるほか、オール 電化製品への関心も高まっている。
		都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・原油価格の高騰により国内旅行者が増えている。単 価は微増であるが、予約数が増えている。
	旅行代理店（経 営者）	販売量の動き	・海外旅行の受付件数は相変わらず前年割れとなっ ているが、春ごろに落ち込んだ分が戻ってきているの か、若干の回復がみられる。	
	変わらない	商店街（代表 者）	販売量の動き	・相変わらず客足の引きが早く、売上の最後の伸びが ない。
		一般小売店〔食 料品〕（管理担 当）	販売量の動き	・今年は中元による販売量の増加が後ずれしている。 全体として売上は伸びているものの、コストの上昇で 利益は増えていない。
一般小売店〔カ メラ〕（販売担 当）		お客様の様子	・例年は5月の連休からレジャー関係の需要が増え、 カメラ、プリント共に売上が増えるが、今年は全くの 横ばい状態となっている。	
百貨店（売場主 任）		来客数の動き	・今は店内が工事中であるが、食料品の売上は入店客 数に比例するため、厳しい状況が続いている。	
百貨店（売場主 任）		単価の動き	・セールは堅調に推移しているものの、日並びの關係 でやや苦戦している部分もある。一方、正規価格では 価格を抑えた秋色夏素材の商材が好調に売れているな ど、買い得感のある商品には、客の反応は悪くない。	
百貨店（サービ ス担当）		お客様の様子	・猛暑の影響で、クリアランス商品の衣料品を中心 に好調であるが、特選品や美術工芸品などの高級商材 の売行きは非常に鈍い。店全体の売上も、前年実績の確 保が難しい状況である。	
百貨店（マネー ジャー）		単価の動き	・今月はクリアランス商品が中心であるが、客単価は ダウンしている。来客はある程度みられるが、本当に 欲しい物しか買わない傾向が続いている。	
スーパー（経営 者）		来客数の動き	・特売日を中心に来客数が大幅に増えている。また、 昨年に比べて雨が大幅に少なかったことも、来客数の 増加につながっている。	
スーパー（店 長）		お客様の様子	・客は少しでも安い商品を買うため、曜日や広告の 内容によって買物する店舗を変えている。それに伴い、 来客数が増加した日は客単価の下がる傾向が続いてい る。	
スーパー（経 理担当）		販売量の動き	・猛暑により夏物商材は好調であり、土用の丑の日も 売上は意外に健闘した。ただし、魚部門は大きく前年 割れとなっている。	
スーパー（広報 担当）		販売量の動き	・気温の上昇と共に、季節商材を中心に好調な動きと なっているものの、うなぎの苦戦が目立っている。	
コンビニ（経営 者）		来客数の動き	・今年の夏は非常に暑いため、本来は飲料水の売上が 伸びるはずであるが、競合店がオープンした影響で昨 年よりも20%減となっている。	

	住関連専門店 (店長)	来客数の動き	・今年に入って来客数が毎月落ちており、特にこの夏は激減している。最近ではバーゲンですら買い控えが起こるようになり、今年は過去最低の売上を記録している。
	その他専門店 [宝飾品](販売担当)	お客様の様子	・生活必需品の値上がりに加え、ボーナス支給額の減少によって客の購買意欲が低下している。
	観光型ホテル (経営者)	それ以外	・燃油サーチャージの上昇で海外旅行は売れていないが、近場の旅行も全然売れていない。市内プールの来客状況をみても、最新設備を備えた所よりも、料金の安い公営プールの方が盛況であるなど、客の間で節約ムードが強まっている。
	観光型旅館(経営者)	競争相手の様子	・夏の海水浴シーズンを迎えたが、明らかに来客数が減っている。自動車の通行量が例年とは全く違う。
	都市型ホテル (マネージャー)	来客数の動き	・宿泊、宴会部門に支えられて合計では売上目標が達成できたものの、一時的な動きにとどまる。特に、レストランの高額店舗では来客数が減少傾向にあるなど、消費マインドの低下がみられる。
	通信会社(経営者)	お客様の様子	・新規案件への問い合わせは少ないものの、受注案件はそれなりにある。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・新しいアトラクションが伸び悩んでいるなど、思ったよりも来客数が伸びていない。
	その他レジャー施設 [イベントホール](職員)	お客様の様子	・可処分所得の減少や原油高の影響で、今夏のレジャーは安近短にシフトするため、恒例の子ども向けイベントは入場者数が増加する。
	その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設](企画担当)	来客数の動き	・今のところ、天候要因以外での来客数の落ち込みはみられないものの、良くなっている感もない。
	美容室(店長)	販売量の動き	・セット販売を行っている化粧品で、新商品の売出しが今月に前倒しになったことで売上が伸びている。
	住宅販売会社 (総務担当)	販売量の動き	・インターネットなどで広告を行っているものの、客の反応が悪く、販売が伸びない。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	それ以外	・目的買いの客が減っているほか、店ごとの定休日のばらつきや閉店時間の早さが目立つ。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・商店街全体のクレジットカードでの売上をみると、昨年のような伸びがない。現金の買物も同じような状況となっている。
	一般小売店[時計](経営者)	販売量の動き	・来客数は横ばいで推移したものの、売れたのは時計のバンドなどで、腕時計や目覚まし時計はほとんど売れていない。また、若い客の来店頻度が落ちており、特に20代を中心に余裕のなくなってきた感がある。
	一般小売店[鮮魚](営業担当)	販売量の動き	・例年、夏場の販売量はほかの季節に比べて2割ほど増えるが、今年は逆に減っている。
	一般小売店[精肉](管理担当)	販売量の動き	・今年の中元は単価や商品内容に変化がみられるほか、食品偽装事件の影響も出ている。特に、買い回り品はギフト以上に変化が大きく、売れる商品が牛肉から豚肉へ、豚肉から鶏肉へと変わっている。
	一般小売店[衣服](経営者)	お客様の様子	・夏になっても季節商材の売行きに盛り上がりがなく、客の購買意欲も低い。
	一般小売店[精肉](管理担当)	単価の動き	・客の価格に対する意識がますます強まっており、ぜいたく品の動きが極めて鈍い。
	百貨店(売場主任)	販売量の動き	・クリアランスセールが始まって、特に主婦層を中心に財布のひもは固く、売上は前年を大きく下回っている。
	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・非常に入店状況が悪いほか、客が必要以上に物を買わない傾向にある。
	百貨店(企画担当)	販売量の動き	・生鮮食品の売上が前年を下回っている。
	百貨店(企画担当)	お客様の様子	・雨が少なかったため来客数は伸びたものの、衣料品を中心に買上げにはつながっていない。
百貨店(営業担当)	販売量の動き	・例年、夏物衣料のバーゲンではかなりの受注が見込めるが、今年のバーゲンは動きが今一つである。	

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・猛暑の影響で来客数が急減したのに伴い、売上も低迷している。ただし、富裕層の間では200万円以下の商品の買上げが激減したものの、一部では300万円を超える高級時計や美術品の購入もみられる。
百貨店（店長）	販売量の動き	・客単価や販売量が悪化している。客の間では必要最小限しか購入しない雰囲気が広がっている。
百貨店（商品担当）	お客様の様子	・客の買い控え傾向がますます強まっている。特に、宝飾品やラグジュアリー商品といった生活必需品以外の商品は、売上が前年割れとなる店がほとんどである。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・2、3か月前からパンなどの小麦関連商品、油といった食品全般が値上がりしており、客の生活にしわ寄せが来ている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は前年比93%と落ち込んでいる。食料品は横ばいであるが、衣料品、住居関連品で2割減となった。一方、商品単価は前年比96%、販売点数は97%であり、来客数と同様に前年割れとなっている。
スーパー（企画担当）	競争相手の様子	・商圈内の競争激化で、来客数、売上共に落ち込んでいる。
スーパー（管理担当）	販売量の動き	・値上げによって販売単価が上昇したものの、必要な物だけを購入する傾向が強まり、買い控えが起きている。
スーパー（開発担当）	販売量の動き	・毎月の売上が下降気味で、前年に比べても落ち込んでいる。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・値上げ率の高いカップめんや菓子パンの買い控えが目立ってきている。
コンビニ（店員）	単価の動き	・パンや菓子などの販売価格が上がっている。
衣料品専門店（販売担当）	競争相手の様子	・物価の上昇により、競合店でも売上が落ちている。
衣料品専門店（営業・販売担当）	販売量の動き	・客の買物の様子をみていると、必要な物を必要な時期にしか購入しない。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・車を販売する際に、燃費の説明にかなりの時間を取られるようになったほか、自動車離れを起こす客も増えている。さらに、盆休み前の整備需要もかなり減っている。
乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・例年は夏のレジャーに向けて点検を行ったり、乗り換えを検討したりする客が増えるが、今年は車を使用しないという話をよく聞く。
乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・ガソリン価格が引き続き高騰しており、そのほかの物価も上昇が続いている。その影響で新車の購入意欲に低下がみられる。
その他専門店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・ドラッグストア業界は既にオーバーストア状態であるにもかかわらず、同業者以外とも商品がバッチングしており、競争が激しさを増している。それに伴い、来客数の減少が続いている。
その他専門店【スポーツ用品】（経理担当）	販売量の動き	・とにかく買い控えが目立つ。夏物商材の値下げが始まって動きが鈍い。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が前年比で94%と、減少傾向に歯止めが掛かっていない。客のリピーター化を進めているものの、新規来客者の増加にはつながらない。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夏休みに入って来客数が増えつつあるものの、3か月前に比べると減少している。それに伴い、客単価も10%ほど下がってきている。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・年配層の予約が減ってきている。
観光型旅館（団体役員）	来客数の動き	・前年に比べて来客数が約10%落ち込んでいる。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊はビジネス客の利用がやや回復しているほか、観光客や東アジア諸国からの団体客の動きは例年どおりとなっている。一般宴会は大型の周年パーティーなどの特殊要因でプラスとなったものの、レストランはランチ、ディナー共に、4月以降は来客数の減少が激しい。駐車サービス券の発行数も減少していることから、車での利用客も減少している。

	都市型ホテル (役員)	来客数の動き	・ビジネス客は低価格ホテルを選ぶ傾向が強まり、宿泊客数が減少している。当ホテルも価格を下げざるを得ず、売上が更に落ち込む結果となっている。レストランでも主婦層の財布のひもが固くなり、ランチを中心に来客数が減少している。
	都市型ホテル (営業担当)	来客数の動き	・宿泊は月初めの個人予約が非常に悪かったが、夏休みに入って直前の予約が大きく伸び、調子の良かった前年を上回って推移している。一方、一般宴会は小規模の予約が多く入っているものの、定例の大型宴会の予約がずれたこともあって、売上は前年比でマイナスとなっている。レストランも来客数が今春から減少しており、原材料の値上がりとともに厳しい状況となっている。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・燃油サーチャージの上昇に関する報道が、海外旅行需要を更に低下させている。
	旅行代理店(広報担当)	お客様の様子	・夏休みの旅行申込は実際に伸びると予測していたが、全く伸びていない。特に海外旅行は前年の水準を10%ほど割り込んでいる。
	タクシー運転手	来客数の動き	・猛暑の影響で、昼間は近距離でもタクシーに乗る客が増えている一方、夜11時以降は駅、繁華街共に利用客が減少しており、全体では横ばいとなっている。
	タクシー会社 (経営者)	お客様の様子	・法人客、個人客共に、交通費を節約する風潮が根付いている。さらに物価の上昇により、ますますタクシーが必要ではなくなってきた。
	通信会社(経営者)	お客様の様子	・原材料費の高騰などで、取引先の広告宣伝費が減少している。
	通信会社(経営者)	お客様の様子	・割賦方式による販売割合が引き続き上昇しており、買い換え需要が低下しつつある。
	通信会社(社員)	お客様の様子	・オリンピック直前であるにもかかわらず、デジタルテレビがあまり動いていない。
	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・アミューズメント施設向けのゲーム機器では、販売状況が弱含みとなっている。
	通信会社(企画担当)	お客様の様子	・原油高による買い控えの影響が、来客数などに顕著に表れている。
	その他サービス [学習塾](経営者)	来客数の動き	・今月からの夏休みのキャンペーンへの参加者が、例年に比べて少ない。
	その他サービス [ビデオ・CD レンタル](エリア担当)	販売量の動き	・ガソリン高騰による影響もあり、販売量は更に下降傾向となっている。
	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・土地相場が下落するなか、新築供給型の不動産会社は在庫を多く抱えて困っている。特に、高層タイプのマンションは市場が飽和状態となっている。
	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・市場では流通在庫が増えつつある。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・購入マインドの低下や諸物価の高騰により、消費者の目がマンション購入に向いていない。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・マンションの販売状況が非常に悪く、新築マンションでは値引き合戦が始まっている。
	その他住宅投資 の動向を把握できる者 [不動産仲介](経営者)	それ以外	・来客数の減少のほか、売れ残り在庫の増加が進んでいる。会社の倒産も増えているため、金融機関も融資に慎重になり、貸出しが増えていない。
	その他住宅[展示場] (従業員)	お客様の様子	・住宅展示場への来場組数が前年に比べて2割減となっている。
悪く なっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・ボーナス効果もなく、各商店では値下げが始まっている。商店街の近隣にある中型スーパーも8月末で閉店予定である。
	一般小売店[衣服] (経営者)	販売量の動き	・4月以降は最悪の状態が続いている。今月も天候は良好であったが、売上や来客数が伸びていない。
	一般小売店[珈琲] (経営者)	お客様の様子	・取引先の様子をみると、仕入価格は食品類の値上がりで上昇しているが、販売価格への転嫁がほとんど進んでいない。販売価格の見直しは、商品当たりの容量を減らす必要があるが、客離れを恐れて動いていない。

	一般小売店〔家具〕（経営者）	単価の動き	・食料品のほか、公共料金の値上がりもあるため、客は買物を控えている。
	一般小売店〔雑貨〕（店長）	販売量の動き	・タスポの導入以降、たばこの自販機での購入は低迷したまま回復していない。全体の販売量も、タスポの導入以降は減少したままである。
	一般小売店〔花〕（店員）	来客数の動き	・食品の値上げに加え、猛暑で来客数が減少している。
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・例年は秋物商材が売れ出すこの時期に、反応が全くない。セール品も売れ残りを物色するだけで、なかなか売れない。
	百貨店（売場担当）	来客数の動き	・猛暑などの天候の影響もあり、来客数はこの上期で最も悪い。
	百貨店（外商担当）	お客様の様子	・製品の値上げやガソリンの高騰により、中元ギフトが買い控えられている。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・ガソリンの高騰で遠出の買物が減り、地元での買物は増えているものの、特売品に集中している。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・ガソリンの高騰が依然として続いており、車の利用が更に減少している。郊外型の大型スーパーでは、週末は前年並みの入庫台数であるが、平日は前年の10～20%減となっており、来客数の減少に歯止めが掛からなくなっている。
	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・1店舗当たりの販売台数が、前年の31.4台に対し、今年は18.4台と大きく落ち込んでいる。
	その他専門店〔宝石〕（経営者）	お客様の様子	・先月に続き、ガソリン価格や食品価格が上昇している。客に購買意欲がみられないどころか、持っている貴金属をお金に換える動きが進んでいる。
	その他専門店〔食品〕（経営者）	単価の動き	・原価は大幅に値上がりしているものの、飲食店での値上げは一向に進んでいない。
	一般レストラン（経営者）	それ以外	・客に元気がないほか、来客数の少なさが目に付く。
	観光型旅館（経営者）	単価の動き	・来客数が前年比で15%増えた一方、売店の売上は伸びておらず、客単価は約7%低下している。ただし、飲酒関係の売上は1コインメニューを取り入れたことで20%増となっている。
	都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・販売量が落ちているほか、客の間に買い控え感が出てきている。ボーナスが支給されても、消費は上昇ムードとはなっていない。
	旅行代理店（店長）	販売量の動き	・国内旅行では、近場の旅行やプールなどの需要が多くなってきている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・流し営業での乗車率が悪く、他社の車もほとんどが空車である。1人の客に対して5、6台のタクシーが集まる状況となっている。
	競輪場（職員）	競争相手の様子	・物価上昇の影響でレジャーに回せるお金が少なくなっており、特別競輪の売上は3か月前に比べて大きく落ち込んでいる。
	競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は14,503円と、4月の17,269円よりも悪くなっている。
	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・問い合わせ件数が減少しているほか、契約に至るまでの客の動きも悪い。
	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・建設、不動産業界の取引先の状況は大変厳しく、この数週間で大型倒産が相次いでいる。サブプライムローン問題を発端とした金融不安も大きな影響を及ぼしている。
企業動向関連	良くなっている やや良くなっている	-	-
	電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・オリンピックを目前に控え、薄型テレビやハイビジョン録画のブルーレイディスクレコーダーなどの荷動きが活発になっているほか、猛暑でエアコンなどの夏物商材も活発に動いている。
	電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・一部メーカーからの受注が増えているほか、取引先の生産増に伴う新規引き合いが出てきている。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産市況の悪化で土地価格が下落している。ファンドやデベロッパーは厳しい状況となっているものの、逆に好機と感じている企業もあり、引き合いが増えている。

変わらない	繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・原油高騰による外注加工費や資材価格の上昇のほか、消費者の買い控えによる影響で、国産品の注文が一部で増えている。
	化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月不振であった建設用の樹脂が持ち直してきたほか、中国向けの半導体封止樹脂が引き続き好調となっている。北京オリンピックに伴う規制強化で、中国の物流、通関に障害が出ると予想されていたが、大きな影響は出ていない。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社には鉄鋼関連の客が多いが、原子力関連の資材を製造している企業では、設備投資意欲が依然としておう盛である。
	電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・大企業による値上げが目立っているほか、受注価格も厳しい状況となっている。ただし、受注量や販売量に大きな変化はない。
	輸送業（営業所長）	取引先の様子	・取引先からは様々な案件が寄せられるが、そのほとんどは値上げ要請に伴う業者の切替えか、相見積りの依頼である。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・クライアントは電気関係の企業が中心であるが、一進一退の状況となっている。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・ガソリンの高騰で、遠くの大型スーパーではなく近所に出掛ける人が増え、取引先の中小スーパーマーケットでは売上がやや増加している。また、製造業の取引先では、大手電機メーカーの進出を機に研究開発投資や設備投資が増えている一方、農業関係では肥料の値上げに戦々恐々としている。全体的にみれば、製造業も農業もエンドユーザーに直接販売し、利益を得る動きが顕著になっている。
	やや悪くなっている	繊維工業（総務担当）	取引先の様子
出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）		受注量や販売量の動き	・例年、夏期は受注量が減少するのに加え、今年は生活必需品の高騰で買い控えも起こっている。オリンピックの開催で弱電関係などは好調であるが、それはごく一部の動きである。
化学工業（経営者）		受注量や販売量の動き	・全体的に落ち込みがみられるなかで、インテリア部門、レジャー、アミューズメント部門、包装資材部門の3部門は特に落ち込みが激しい。
化学工業（企画担当）		取引先の様子	・主要取引先のパン業界で第2次値上げが実施された。大手取引先は値上げと生産調整で原料高に対応しているが、その影響で原料の流通量が減少し、売上が落ちている。
金属製品製造業（経営者）		取引先の様子	・鋼材を始めとする原材料価格が上昇するなか、製品価格への転嫁が難航している。
金属製品製造業（管理担当）		受注価格や販売価格の動き	・鋼材や原油、消耗品など、生産に必要な部品のほとんどが値上がりしている。販売価格を値上げしたものの、価格の安い他社製品に需要が流れ、売上が落ちている。
金属製品製造業（総務担当）		取引先の様子	・中堅以下の建設業者、特にマンション関係の業者による倒産が増えている。当社にも一部不良債権が発生するなど、受注環境は非常に厳しい。
一般機械器具製造業（経営者）		受注量や販売量の動き	・新規受注量が減少している。
一般機械器具製造業（設計担当）		それ以外	・賃金が減少する一方で、1人当たりの仕事量は増えている。
電気機械器具製造業（経営者）		競争相手の様子	・メーカーによる設備の自動化や効率化の注文は相変わらず多いが、採算がなかなか取れないこともあって延期になっている。
電気機械器具製造業（企画担当）		受注量や販売量の動き	・売上は前年割れとなったが、水準としては3か月前と同じ程度であるため、一段と悪くなったわけではない。ただし、原材料、物流費の高騰による影響が出始めている。
建設業（経営者）		受注価格や販売価格の動き	・激しい受注競争に加え、原油高による建設資材の高騰により、更に厳しい状況となっている。
建設業（経営者）		受注価格や販売価格の動き	・原材料の値上げに伴って工事価格が10～15%上昇するなど、収支は大変厳しい状況である。

		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・生活必需品の値上げ以降、家具の配達件数、1件当たりの個数共に減少している。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・3店舗を経営するガソリンスタンドでは、毎月のように仕入価格が上昇しており、個人客を中心に客離れが一段と進みつつある。
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・分譲マンション、戸建住宅共に、建築コストの上昇で販売価格が上がっている。その一方で、市場の相場は下がっているため、販売在庫が消化できずに困っている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・購読数は維持しているものの、折り込み件数が落ちている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・4月時点では期初で受注がいくつかあったが、今月はかなり厳しい。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年度明け以降、テレビスポットの受注状況が良くない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	取引先の様子	・原料高、原油高で商品の値上げが続いているが、客に対する値上げの報告に時間を取られ、商品の動きが非常に悪い。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・様々な商品が値上がりするなか、売れているのは特価商材ばかりであり、不要不急の雑貨品については購入意欲が低下している。
悪く なっている		食料品製造業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・原材料が高騰する一方、製品の販売価格は全く上がらない。一部の小売店がプライベートブランド商品を出して売上を伸ばしているが、市況が良くなっているわけではない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	競争相手の様子	・今月に入って、定時一杯まで仕事をしなくて済む同業者が増えている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	取引先の様子	・競争相手に勝つためにはコストの引下げ要求に応じるしかない。
		その他製造業〔履物〕（団体役員）	受注量や販売量の動き	・季節商材の売行きが低調である。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先のマンションデベロッパーは、売行きが悪化で売上が大幅に減少している。食品スーパーも、客がプライベートブランドなどの安い商品や、本当に必要な物しか購入しないことから、収益が悪化している。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・紙媒体の売上が極端に下がってきている。
	雇用 関連	良く なっている	-	-
やや良く なっている		-	-	-
変わらない		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・例年7、8月は落ち着いた動きとなるが、IT関係は昨年と大きく様変わりし、かなり暇になっている。ただし、一般派遣については底堅い動きがみられる。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・今年度に入って登録者数の確保は順調に進んでいるが、企業からの求人要件とマッチせず、成約数が伸びていない。
やや悪く なっている		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・派遣先企業からの求人件数は、今年度に入って減少傾向が続いている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・日雇派遣の廃止問題もあり、製造業での人材募集が急速に減少している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・新聞の求人広告は4月ごろから低迷しているが、今夏の企画も受注につながらないなど、回復の兆しがみえない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・新聞離れが依然として続いており、安価なインターネット求人や無料のハローワークを利用する企業が多い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・企業による広告出稿の状況が悪すぎる。特に、百貨店や流通業界の落ち込みが激しい。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・パートやアルバイトを除き、関西の中小企業の求人状況は悪化傾向が進んでいる。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職申込者数の減少が続いていたが、ここ2か月は増加に転じたほか、在職求職者も増加している。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が4か月連続で低下、新規求人数は前年比で11か月連続の減少となっている。特に、3月以降は20%以上のマイナスが続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・派遣、請負求人の受理適正化の影響により、サービス業の新規求人が前年比で大きく減少しているが、それ以外で特に大きな動きはない。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人数に大きな変化はないものの、前年に比べて求人企業に人員確保への切迫感がほとんどない。また、正社員比率が低下しているなど、求人の質が悪化している。
	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・日雇求人数は極めて低調であった前年並みまで持ち直しつつあったが、今月になって再び前年を下回っている。
	民間職業紹介機関（支社長）	採用者数の動き	・新規求人の依頼数が明らかに減少してきている。特に、複数名を採用する企業がかなり減っており、企業の採用姿勢が慎重になっている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人依頼に訪問してくる企業が減少している。
	学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・求人件数は増えているが、理系分野や特定職種に限られた求人となっている。ただし、派遣求人の件数は増えている。
悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・今年の春先までは人手不足感も残っていたが、最近になって明らかに求人が減っている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・原油、小麦といった資源価格の高騰による先行き不透明感から、企業の求人意欲が全産業で低下し、既存求人の更新も厳しい状況にある。特に資源価格高騰の影響が大きい製造業では、事業拡大に伴う新規求人が減少し、必要最小限の欠員補充にとどまっている。一方、介護分野は低賃金で重労働といった傾向が強いため、慢性的な人手不足となっている。